



皇
手
好
良
河



晴夕十甲の秋の光
るのまゝをよも
稲妻や梅を
来ぬ顔

柳のまの

不人

手あつた

後ろの河を流るは流る

前かた

心や秋の

心はあつた

の秋の

夕暮れ田の光や

里の光

家院 松鶴

水戸の川を流る

秋

松鶴

柳のまのまの

秋

柳のまのまの

追加

伊勢を田の光や里の光 孤山

海をの光を流るは流る 湖月

るのまゝをよも 三童

後ろの河を流るは流る 百川

七月廿日

巻頭

水戸の川を流るは流る 伊勢

十一日

きらり〜い〜ふ〜お〜の〜
 山城の丸のさ〜も〜や〜死信男 松鶴
 怖〜子に〜あ〜く〜も〜や〜角力死 鳥籠
 夕〜と〜あ〜も〜刺〜有〜く〜を〜ま〜し〜一ノ三ノヤ 暁空
 稲妻や海〜も〜あ〜も〜ぬ〜い〜風〜ツツ 一麻
 城〜と〜松〜の〜ま〜や〜と〜お〜秋ナレニ 左木
 さ〜し〜出〜る〜蚊〜の〜ま〜し〜如〜死 鳥夕
 七 上巻
 船〜も〜あ〜や〜田〜也〜坊〜や〜も〜大〜中〜船ヒロシ 張籠船

河中の半郷江やを〜ま〜し〜ヒロシ 岩倉
 う〜の〜の〜や〜し〜う〜も〜わ〜か〜り〜おハナ 豊水
 中〜の〜所〜と〜所〜を〜の〜ら〜や〜ま〜く〜いフキ 東条
 解〜初〜と〜謀〜り〜も〜そ〜り〜角〜力〜死 中条
 船〜妻〜や〜あ〜も〜あ〜新〜く〜大〜中〜船 鳥籠
 石橋〜と〜船〜と〜も〜あ〜も〜あ〜も〜あ〜ミノ 砂丸
 初秋や〜あ〜も〜あ〜も〜あ〜も〜あ〜も〜あ〜ハナ 鳥籠
 え〜地〜の〜形〜を〜ア〜く〜と〜あ〜も〜死ナレニ 百川
 是〜の〜の〜く〜も〜あ〜も〜あ〜も〜あ〜も〜あ〜ハナ 西可

高杉の司心あはれ者 古生
 松竹とて川を流る 夜曇坊
 着るに掃除の如く 小島
 うしろの園地は 此島友
 新秋の物ゆへに 川 一五 甲斐女
 きしむ吟を山枯れきり 其母
 若くはさうと 藤に流るゝ 其母
 舟 由
 舟のあや回の 霞くはぬの 舟 在る 雲は

舟

舟のあや回の川を流る 舟 野丸
 舟のあや回の川を流る 舟 野丸
 八月五日 題
 巻 頭
 舟のあや回の川を流る 舟 野丸
 十 五
 川舟のまゝの舟の 舟 野丸
 舟のあや回の川を流る 舟 野丸

石光
 若朝
 室舟
 白圭
 藤道
 東宗
 甚好
 柳菴
 里曉

松
 砂
 月
 豊
 水
 女
 糸
 川
 豊

水にやみかたの川に流るるを 秋景

花の山にやみかたの川に流るるを 花景

石橋にやみかたの川に流るるを 石橋

白保にやみかたの川に流るるを 白保

秋景にやみかたの川に流るるを 秋景

只に 只に

秋景にやみかたの川に流るるを 秋景

巻 軸

扇賀

遊水

初秋にやみかたの川に流るるを 遠初秋景

九日

巻 額

扇賀

十一

秋景にやみかたの川に流るるを 秋景

一席 一席

秋景にやみかたの川に流るるを 秋景

おれゆきひしと白鏡の秋風分	松海
きよのちけりふし出るやまのち	清笑
澄らけ月影のち披中筆部	二ノ藤
雲のさうらけを金ねりて雨のち	里石
庭のさくらをのちのちのち	秋月
引渡りぬるのちのち	苔舟
七点	
速きりぬるのちのち	杜松
水よりぬるのちのち	松玉

と青き戸梅のちのち	西 <small>ナル</small> 松
葉のちや障子のち	咳 <small>シ</small> 花 <small>ナ</small> 下
葉のちを狭きちのち	氏角
おれゆきひしと白鏡の秋風分	鯉 <small>イ</small> 魚
澄らけ月影のち披中筆部	北 <small>キ</small> 松
雲のさうらけを金ねりて雨のち	茅 <small>チ</small> 屋
庭のさくらをのちのちのち	鳩 <small>ト</small> 巢
引渡りぬるのちのち	子 <small>コ</small> 鳥
速きりぬるのちのち	杉 <small>シ</small> 古

定らくて世にまじりて多かるる
 家後
 如くもいと世にまじりて多かるる
 鳥子
 鳥のあやうきものあやうきもの
 阿月
 蹄のあやうきものあやうきもの
 子葉
 橋のあやうきものあやうきもの
 豊水
 葉のあやうきものあやうきもの
 花下
 鳥のあやうきものあやうきもの
 蕪川
 川のあやうきものあやうきもの
 芝山
 枝のあやうきものあやうきもの
 成角

帆のあやうきものあやうきもの
 樽水
 極先のあやうきものあやうきもの
 席石
 侍のあやうきものあやうきもの
 松風
 鶴のあやうきものあやうきもの
 玉照
 枝のあやうきものあやうきもの
 板板
 餅のあやうきものあやうきもの
 松花
 肉中のあやうきものあやうきもの
 雪野
 木のあやうきものあやうきもの
 三休
 おまのあやうきものあやうきもの
 曉

第一のうらみとあまのこころ
 松鶴
 第二のうらみとあまのこころ
 花木
 第三のうらみとあまのこころ
 湖風
 第四のうらみとあまのこころ
 鳥勢
 第五のうらみとあまのこころ
 梅雪
 第六のうらみとあまのこころ
 豊雪
 第七のうらみとあまのこころ
 里雪女

知のうらみとあまのこころ
 豊雪
 第八のうらみとあまのこころ
 舌就
 第九のうらみとあまのこころ
 里雪女
 第十のうらみとあまのこころ
 西雪
 第十一のうらみとあまのこころ
 子麦
 第十二のうらみとあまのこころ
 花物
 第十三のうらみとあまのこころ
 豊人
 第十四のうらみとあまのこころ
 梅月
 第十五のうらみとあまのこころ
 都

八景の心にあつた山松 あまの松 里松
 よつとちかき山や帯よじ 柳屋
 下子と傳さくしとて葉の記 しんがら 市村
 八人持持るりのるる あまの松 花雪
 三つとつとつ あまの松 雪松
 花の心とて松の影 あまの松 麦矢
 一二枚折りのあまの松 あまの松 聖人
 巻 軸
 八景小長 あまの松 扇景

追お

きつねのあまの松 あまの松 花下
 海 あまの松 徐也
 雪の香 あまの松 松園
 新 あまの松 智童
 之 あまの松 音子
 新 あまの松 意者
 新 あまの松 孫也

十一月五日

卷 五

雲のふりそよ風の粧りし時多^{伊勢} 旭 松

十一

夕の霞の影を月影にまじりて 鬼 竹

あけの空に雲の影を月影にまじりて 布 衣

朝の霞の影を月影にまじりて 妻 衣

あけの空に雲の影を月影にまじりて 妻 鶴

あけの空に雲の影を月影にまじりて 女 袴

あけの空に雲の影を月影にまじりて 女 袴

あけの空に雲の影を月影にまじりて 雨 麦

あけの空に雲の影を月影にまじりて 風 林

七

あけの空に雲の影を月影にまじりて 三 膝

あけの空に雲の影を月影にまじりて 草 衣

あけの空に雲の影を月影にまじりて 女 袴

あけの空に雲の影を月影にまじりて 妻 衣

あけの空に雲の影を月影にまじりて 探 水

あけの空に雲の影を月影にまじりて 一 膝

一しんや花回りのくさの傍まわりの 春風
 少はるや花のうけりまの妙まこと 下夏 勢出
 花をさかすあめいしき子侍こざむらい 暮 惜染
 町まちのこや田たのまのまのしり僧しんじ 梅川
 降ふりるくやくまままままままままままま 遊あそぶ童
 暮くるささままもも影かげのくさや花はな色いろ 古ふる者もの 蒼あき
 柳やなぎのはなまままままままままままま 初はつ花はな
 河か花はなのはなまままままままままま 光ひかり 影かげ
 平ひらのはなまままままままままままま 来き子こ

梅うめ常とこ子こ這はりりのはな色いろ 晴はるる交ま
 柳やなぎ花はなのはなまままままままままま 一ひと居い
 一ひと何なに向むかいいしてしてまままままままままま 柳やなぎ花はな
 何なにららまままままままままままままま 雪ゆき 皇み 皇み
 朝あ花はなのはなまままままままままままま 加か 之これ
 月つきのはなまままままままままままままま 醉よめ 人ひと
 久くららまままままままままままままま 義ぎ 志し
 去こくくまままままままままままままま 雨あめ 散ちり
 春はるをを急いそぎぎでで掃はらいいまままままままま 積つ 景けい

神妙のめづるうらた カニタ 夢子
 何のいぢれきの中ら車 氏角
 嵩あふくまらぬやういふ トコニ 砂浜
 足元さらさらゆるや松毛 扇葉
 長くししゆふふをいふ ちかよ 星地
 川流のゆるゆるの物おも たかた 雲河
 長くしるるるの ツレ 霞中 ツレ 一色
 春柳
 石物ふし ツレ 村雨 ツレ 暮爰

追記

寒帯やなま掃除急入 ツレ 社卜
 から七舟の掃り ツレ 紙衣 ツレ 徐衣
 出づ月の影 ツレ 水衣 ツレ 葉衣
 能飛 ツレ 水衣 ツレ や柳 ツレ 元 ツレ 水衣
 山 ツレ 水衣 ツレ 水衣 ツレ 水衣
 是 ツレ 水衣 ツレ 水衣 ツレ 水衣

十一月五日

巻頭

精々しき氷る垣根部

岩突

十上点

扇突
 揚孝
 梅川
 松枝
 松海
 麦矢
 砂流

七上点

魁
 青蕉
 地松
 扇突
 園子
 龍送
 歸来
 七上

大もや大もや店のお向い 本林 青蓮
 午のまふお出也の朝 子 球子 培集
 折進の妙房 ま せと 事 信 月林
 聖物の好 り ち る 好 成 とも集
 橋通の ゆ 後 の ま 又 し 兼 子 成 トキノ 支 成
 月 わ 丸 に 付 り ち り ち る 兼 成 ウ 兼 成
 授 さ ち の 名 も 好 成 子 鳥
 出 給 ち も 譲 さ ち ら ち も 兼 成 シノ 子 鳥
 市 所 の こ ち と ち な ち る 向 成 ウ 兼 成 曉 星

此 島 を 好 ち ち ち る 兼 成 信 山 村
 大 も や 理 成 の ち ち ち る 兼 成 由 麦
 洗 せ ち お ち の 兼 成 ち 兼 成 子 鳥
 出 さ ち の 兼 成 ち 兼 成 西 向
 起 て ち ま ち の 兼 成 ち 兼 成 青 陽
 船 ち ち の 兼 成 ち 兼 成 氏 角
 兼 成 の ち ち の 兼 成 ち 兼 成 花 雪
 名 所 の ち ち の 兼 成 ち 兼 成 左 板
 大 も や 信 成 ち の 兼 成 ち 兼 成 兼 成

おの原を渡りて言のたづねに
 岩磯くも望みぬ也素心
 花邊 ワタナ
 長しとよき時をし 信川 信川
 のもとを渡るの張るや留め
 糸根越ふ桐のふらふら ミナノキ
 張るおやめし ツツミ
 都子
 巻軸
 うらとて言のたづねに ヤト
 雲玉

山居候とておのくも素心

うらとて言のたづねに 露玉
 糸根越ふ桐のふらふら 露玉
 張るおやめし 露玉
 都子

柳亭
 雲玉 川隈
 五雲 山
 物介坊
 廿又キ
 素更坊

空の原を渡りて言のたづねに
 岩磯くも望みぬ也素心
 花邊
 長しとよき時をし
 のもとを渡るの張るや留め
 糸根越ふ桐のふらふら
 張るおやめし
 都子



Handwritten text in the upper right corner, possibly a title or author's name, written in a cursive script.

Handwritten text in the upper middle section, appearing to be a name or a specific identifier.

Handwritten text in the upper left corner, possibly a date or a reference number.

Handwritten text in the lower right quadrant, likely a signature or a note.

Handwritten text in the lower middle section, possibly a name or a title.

Handwritten text in the lower left quadrant, possibly a date or a reference.